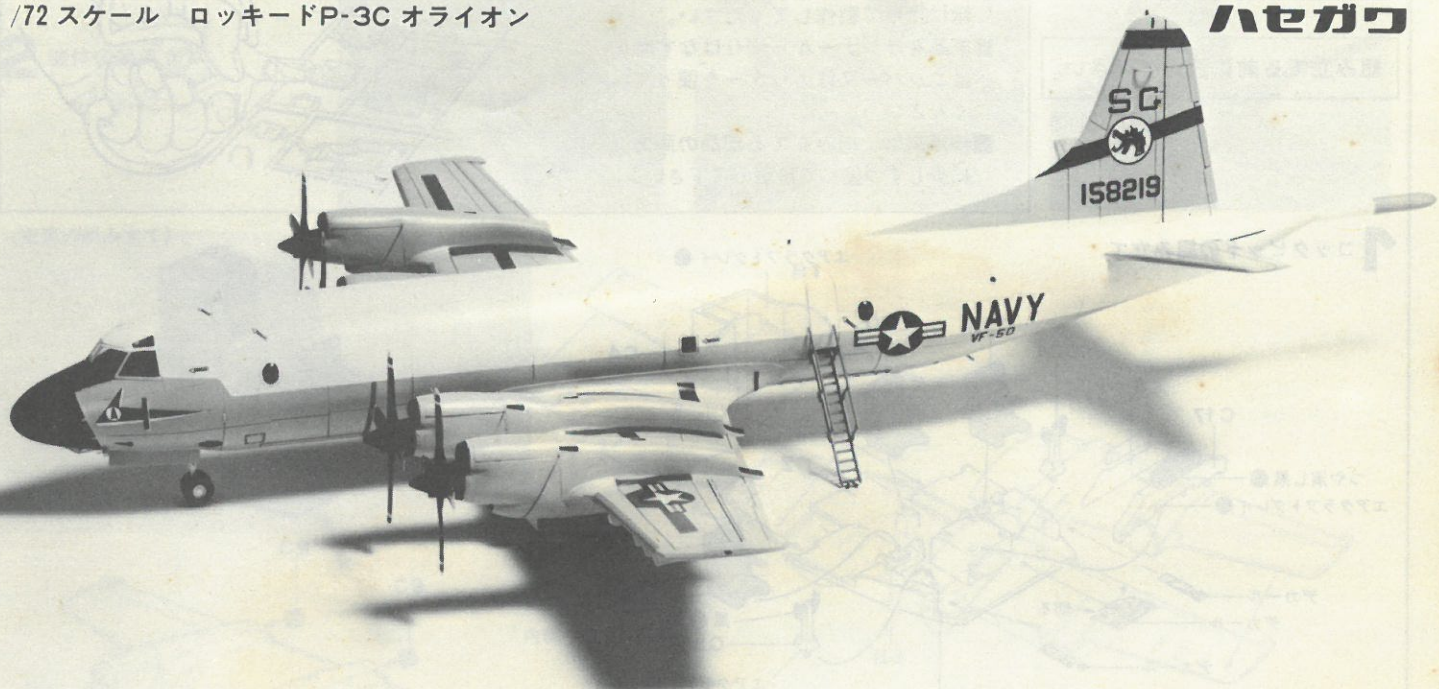


LOCKHEED P-3C ORION

1/72 スケール ロッキードP-3C オリオン



ハセガワ


《ロッキード P-3C オリオン 哨戒機について》

アメリカ海軍の哨戒機は、第2次大戦中に活躍したPV-1ベンチュラとその改造型のPV-2ハーブーン、大戦後の約30年間を飛び続けたP2V/P-2ネプチューン、そしてネプチューンに代って現在アメリカをはじめ、友好国の新鋭哨戒機として登場したP-3オリオンと、ロッキード社の哨戒機は、第2次大戦いらい3世代にわたる伝統と実績を誇っています。機名のPはパトロール、Vはロッキード社の略称、またオリオン (Orion) は、日本語の「オリオン星座」のことです。

P-3は、ロッキードL-188エレクトラ旅客機を母体として発達した4発ターボプロップ長距離海洋哨戒機で、旅客機型の原型は1957年12月6日に初飛行し、当時はアメリカで最速のターボプロップ旅客機として注目されました。この旅客機はイースタン・エアラインズをはじめ、世界の13の航空会社で使用され、日本の上空ではホンコンのキャセイ・パシフィック・エアウエイズの機体がよく見られました。

1958年4月アメリカ海軍では、ネプチューンに対する次期哨戒機として、エレクトラ旅客機改造実験機の試用を発表し、この実験機は1958年8月19日に初飛行しました。さらに海軍が指定した約2.5トンの電子装置と各種の武装を取付けたYP3V-1が、1959年11月25日に初飛行し、審査の結果、制式採用が決定してP3V-1オリオンと名付けられました。この生産1号機は1961年4月15日に初飛行し、部隊配置は翌62年8月13日から始まりました。

1962年の秋、アメリカ3軍の航空機名称変更が行なわれ、以後、P2VはP-2、P3VはP-3に変わり、P3V-1はP-3Aとなりました。このとき対潜専用機のS2FトラッカーもS-2に変わっています。

最初の生産型であるP-3Aは、当時のエレクトラ旅客機がアリソン T56-A-10W 4,585 eshp × 4に強化、機首のレドームが尖鋭になり、広大な胴体内には各種の電子機器とその専任操作員が配置され、前部胴体下部に爆弾倉、主翼下に武装パイロン、後部胴体下部にソノブイ発射筒など、尾部にはMAD (磁気探知機) ステイガーをとりつけて、完全な洋上哨戒機としてその容貌を一新しました。このP-3Aは157機が生産され、うち3機はスペイン空軍で使われ、また4機はアメリカ海軍のWP-3A気象偵察機となりました。次のP-3Bは、エンジンをさらに強化してアリソン T56-A-14 4,910 eshp × 4となり、1966年1月から部隊に配置され、124機が生産されました。ニュージーランド空軍に5機、オーストラリア空軍に10機、ノールウェイ海軍に5機が供与され、またアメリカ海軍の特殊改造機としてEP-3B電子偵察機が現われました。最新生産型のP-3Cは、P-3Bをもとにして航法装置と対潜水艦探知機などの内部装備を新式のものに変えた型で、近代的な哨戒機として、カナダをはじめ西側友好国で現用のP-2ネプチューンに対する次期哨戒機として採用することが決定しました。日本の海上自衛隊でも、P-2Jの後継機としてP-3C系列の機体を採用することになりました。P-3Cは、1968年9月18日に初飛行し、アメリカ海軍で1976年1月までに132機を採用、ほかにオーストラリアの10機、カナダの18機、イランの6機 (P-3F) があり、その後も諸外国からの引き合いが行なわれています。なお、カナダのP-3CはCP-140 オーロラと名付けられました。以上のほか、特殊な改造機として、P-3Cを改装したRP-3D海洋調査観測機、WP-3D気象偵察機、P-3AおよびEP-3Bを改装したEP-3E電子偵察機などがあります。

P-3Cの機体の電子機器、兵装、乗員の配置などを説明するとま

ず機首に前方レーダー・アンテナ、その後には並列複座の操縦席、その背後左側に機関士席、その右側に電源室、次の部屋は指揮統制室で左側にこの飛行機の心臓部ともいえる多目的デジタル・コンピューターを管理する戦術指揮官席、右側は航法通信士席になっています。その背後の胴体中央部の広い部所には、各種電子機器が装備され、電子情報操作員席、ソノブイ探知操作員席が配置され、また、指揮統制室および電子情報操作室の下部は、長さ3.91m、幅2.03m、高さ0.88mの爆弾倉になっており、MK25/39/55/56機雷(2,000ポンド) × 1またはMK36/52機雷(1,000ポンド) × 3またはMK57爆雷 × 3またはMK54爆雷 × 8またはMK43/44/46爆雷 × 8またはMK101核爆雷 × 2およびMK43/44/46爆雷 × 4を装備することができます。主翼後縁付根の後方胴体内には、潜水水中の潜水艦を音響で探るソノブイ、水中発音弾、マリン・マーカ、照明弾などの格納ケースとその発射筒が、その後方の左右両舷には側方観測席があり、この観測員はソノブイなどの操作を兼務します。以上の乗員配置は、前から順に、正操縦士 (左)、副操縦士 (右)、航空機関士 (左)、戦術統制指揮官 (左)、航法通信士 (右)、電子情報操作員 (右)、第1/第2ソノブイ音響探知操作員、左舷/右舷観測兼ソノブイ作業員の合計10名が正規ですが、必要に応じ12名まで増員することができます。後部胴体には、休息兼食事室、2人分の休息ベッド、調理台、トイレットなどが配置され、最大滞空18時間の哨戒飛行に対する十分な居住性が考慮されています。尾部胴体内には、後部レーダー・アンテナを備え、その後端にはMAD (磁気探知機) ステイガーが長く突き出しています。武装は、前記の爆弾倉に装備する内部武装のほか、主翼下に取付けてある6~10個のパイロンにも機雷、魚雷、爆雷、空対艦ミサイル、ロケット弾ポッドなどを取付けることができ、必要に応じ主翼付根下の左側パイロンには妨害電波発信ポッドを、同じく右側パイロンにはテレビカメラ・ポッドを、さらに右翼端内側のパイロンには強力なサーチライト・ポッドを装備することができます。

P-3Cの性能上の最大の特徴は、海洋哨戒機として抜群の航続力をもつことで、昼夜の別なく全天候の航法機器を完備し、広範囲の目的コースを正確に飛行するため、慣性航法装置、ドップラー航法装置、ローランA、C、TACAN グランド・トラッキング・プロッター、ADF、UDF、VOR、ILSなどを完備し、最新の対潜探知機と情報処理システムをもつP-3CアップデートII、IIIは、対潜哨戒のほか、味方の航空機、艦艇に対する空中指揮機としての能力を強めています。

《P-3Cのデータ》

乗員 10名、エンジン アリソン T56-A-14 ターボプロップ 4,910 eshp × 4、プロペラ ハミルトン・スタンダード 54H60 定速4翅、直径4.11m、正規燃料量 9,200USガロン (34,826ℓ)、全幅30.37m、全長35.61m、全高10.29m、翼面積120.77㎡、自重27,890kg、全備重量61,235kg、最大全備重量64,410kg、最大着陸重量47,119kg、最大速度411ノット (761km/h) (高度4,570m)、巡航速度328ノット (608km/h)、哨戒速度206ノット (381km/h) (高度457m)、失速速度112ノット (208km/h)、最高上昇率594m/分、実用上昇限度8,625m、最大行動半径2,070カイリ (3,833km)、3時間の作戦滞空を除いて1,346カイリ (2,494km)、最大航続距離4,140カイリ (7,667km)、基準武装機内装備6,350kg、機外装備2,720kg。

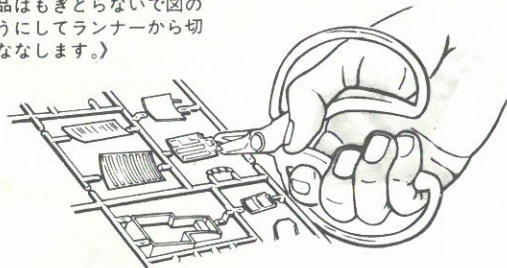
《解説 野沢 正》

組み立てる前に読んで下さい。

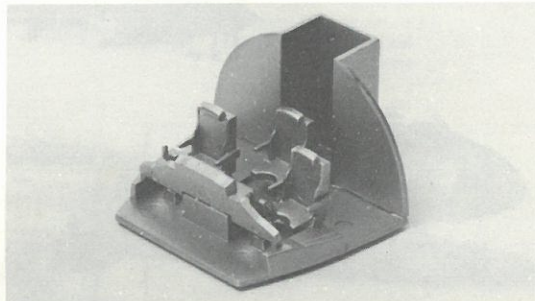
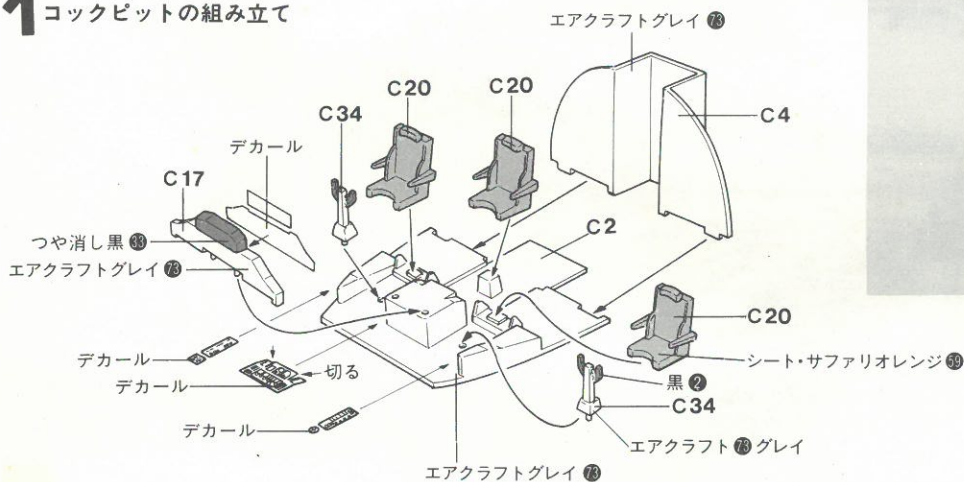
〈くみたるまえに〉

- 説明書を一度全部読んでから、指示に従って製作してください。
- 部品をランナーから切りはなす時はニッパー又はカッターを使ってください。
- 接着剤は、組み立てる部品の両方に少しずつ塗って接着して下さい。

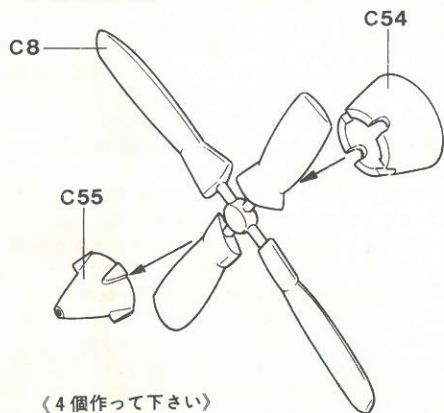
〈部品はもぎとらないで図のようにしてランナーから切りなします。〉



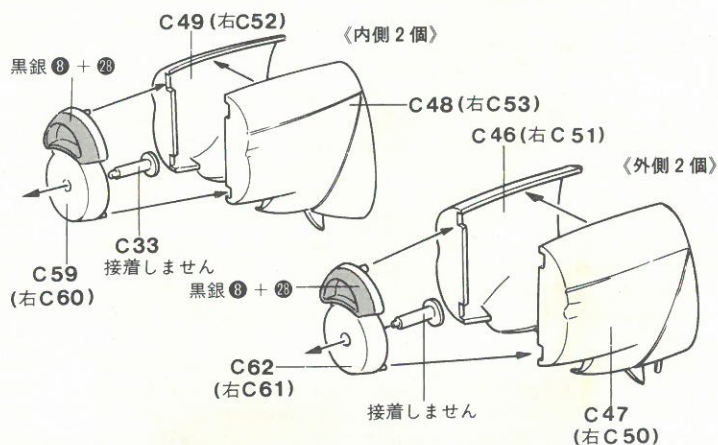
1 コックピットの組み立て



〈プロペラの組み立て〉



〈エンジンセルの組み立て〉

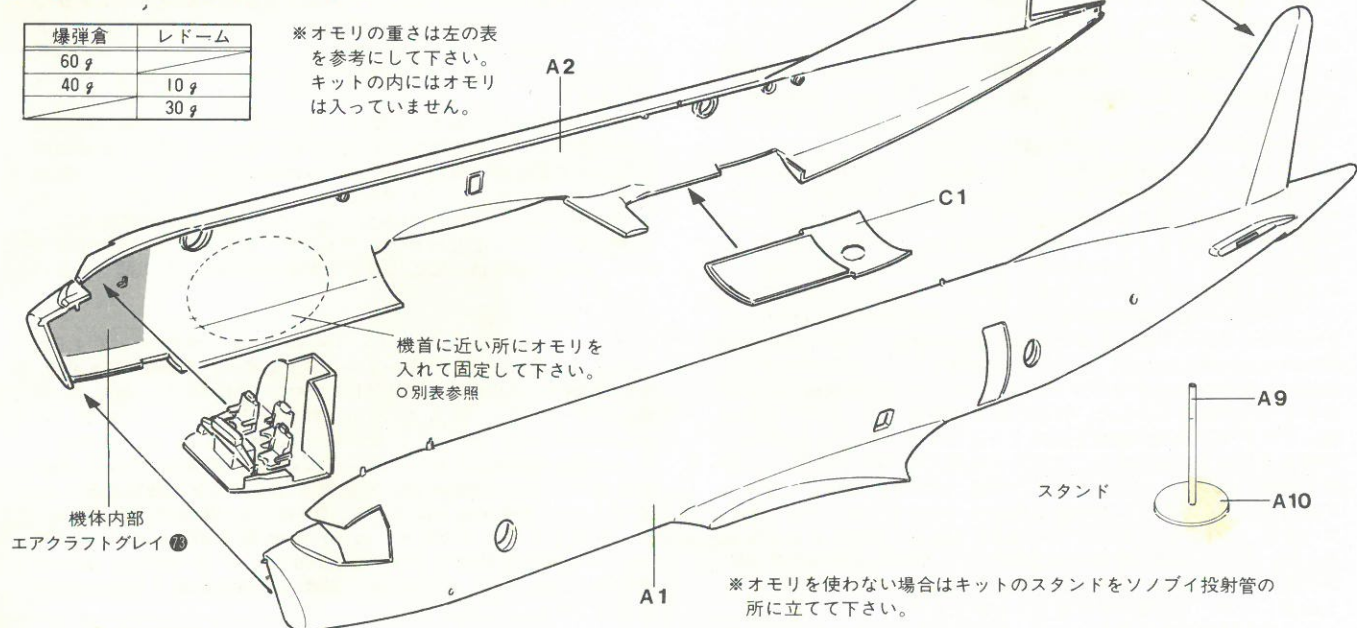


〈胴体の組み立て〉

オモリはできるだけ機首に近い所に入れて下さい。
胴体接着後、オモリが足りなかった場合は、オモリをレドームの中に追加して下さい。

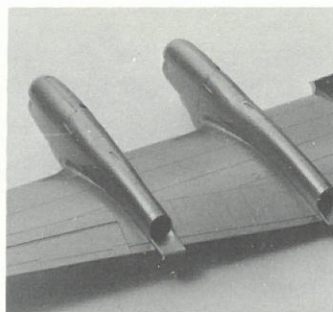
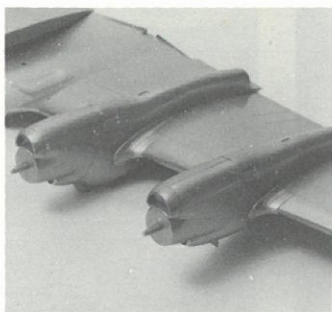
爆弾倉	レドーム
60g	
40g	10g
	30g

※オモリの重さは左の表を参考にして下さい。
キットの内にはオモリは入っていません。

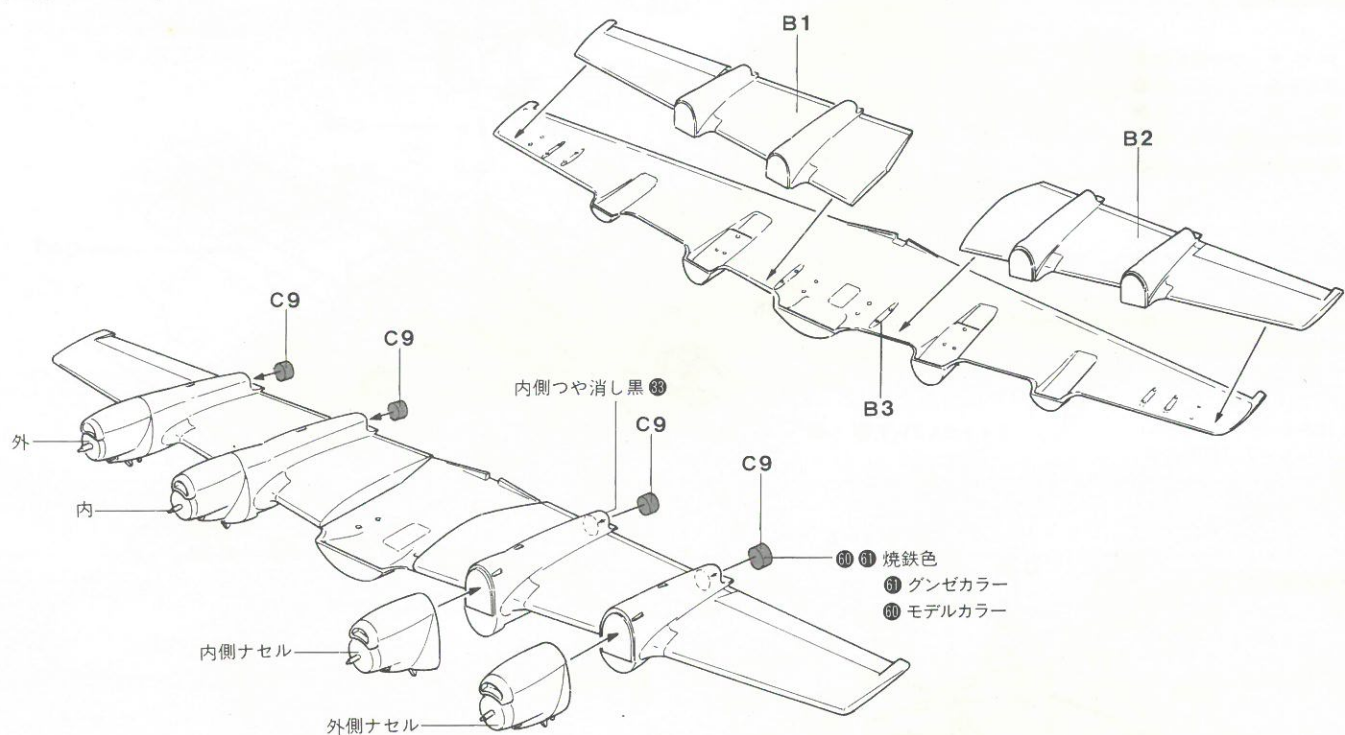


※オモリを使わない場合はキットのスタンドをソノブイ投射管の所に立てて下さい。

2 機体の組み立て

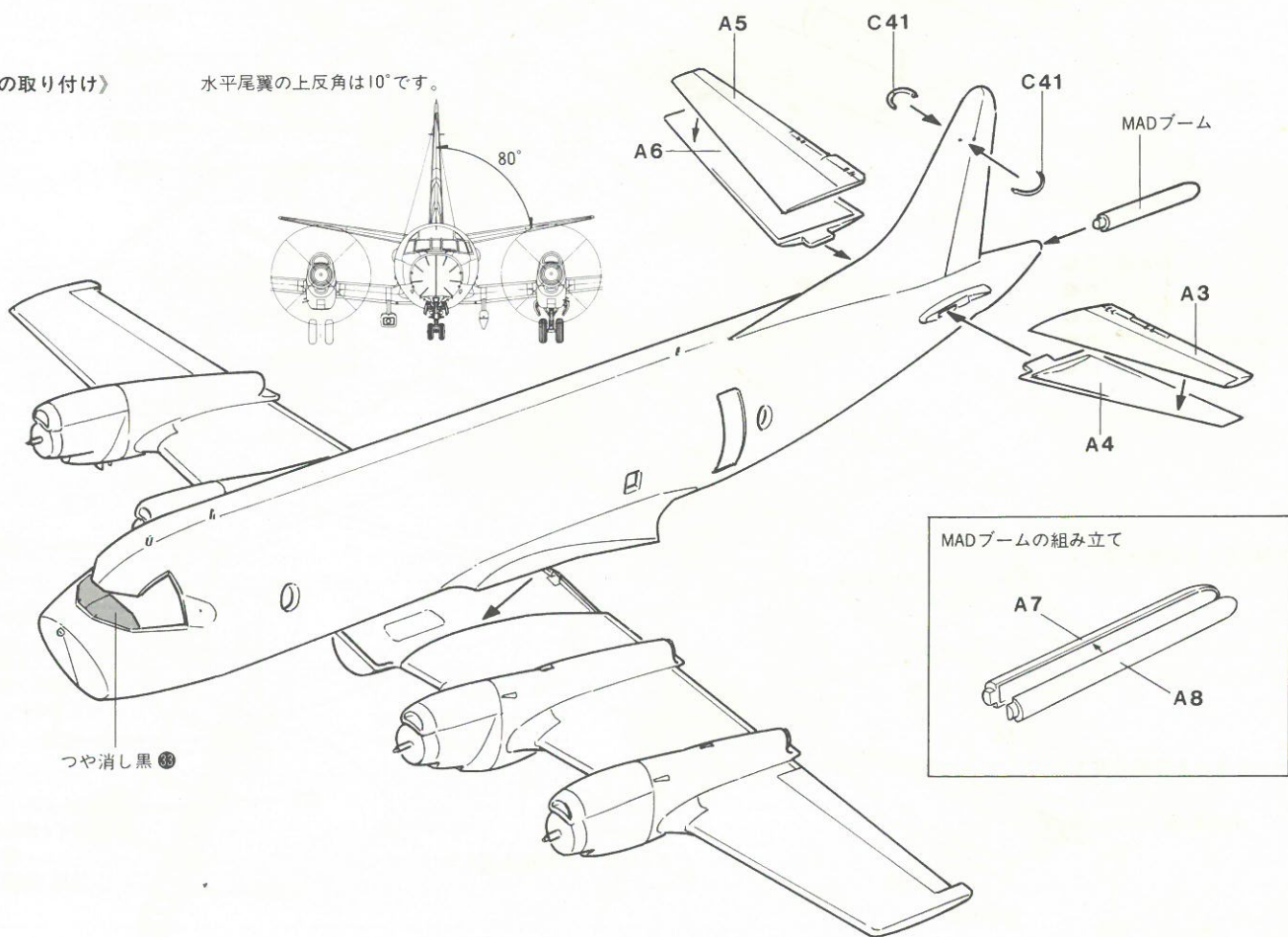


《主翼の組み立て》

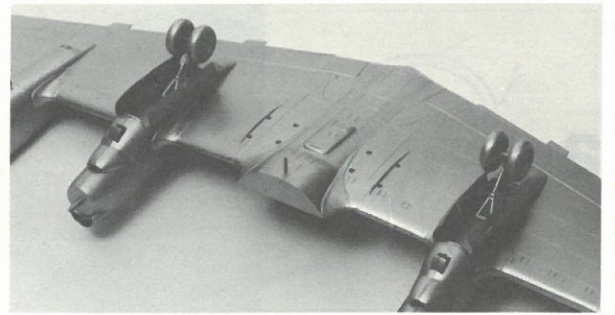
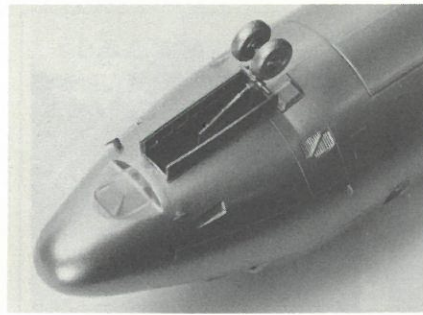


《主翼の取り付け》

水平尾翼の上反角は10°です。



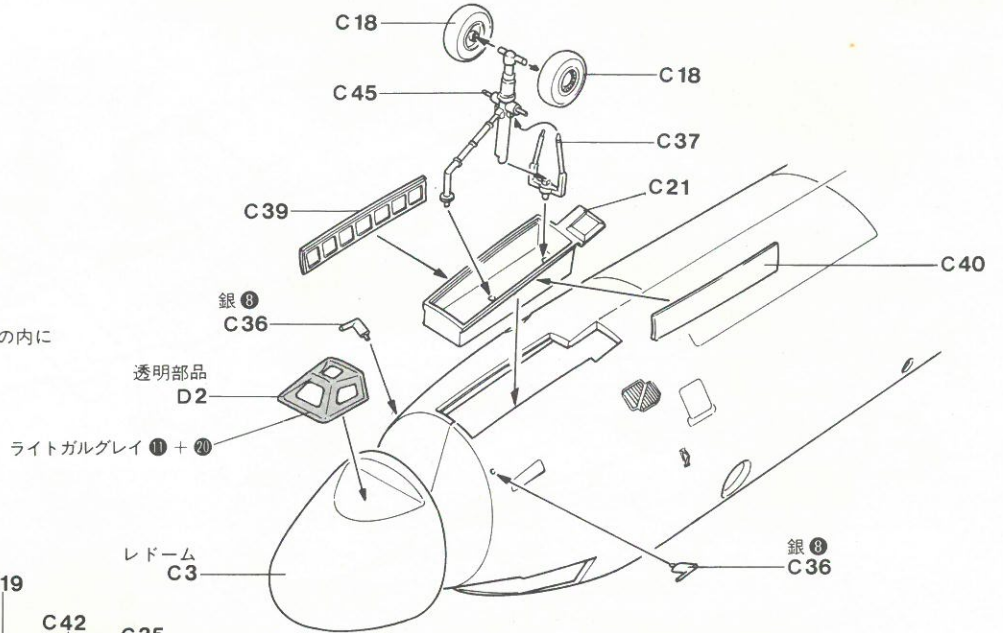
3 脚の組み立て



《前脚の組み立て》

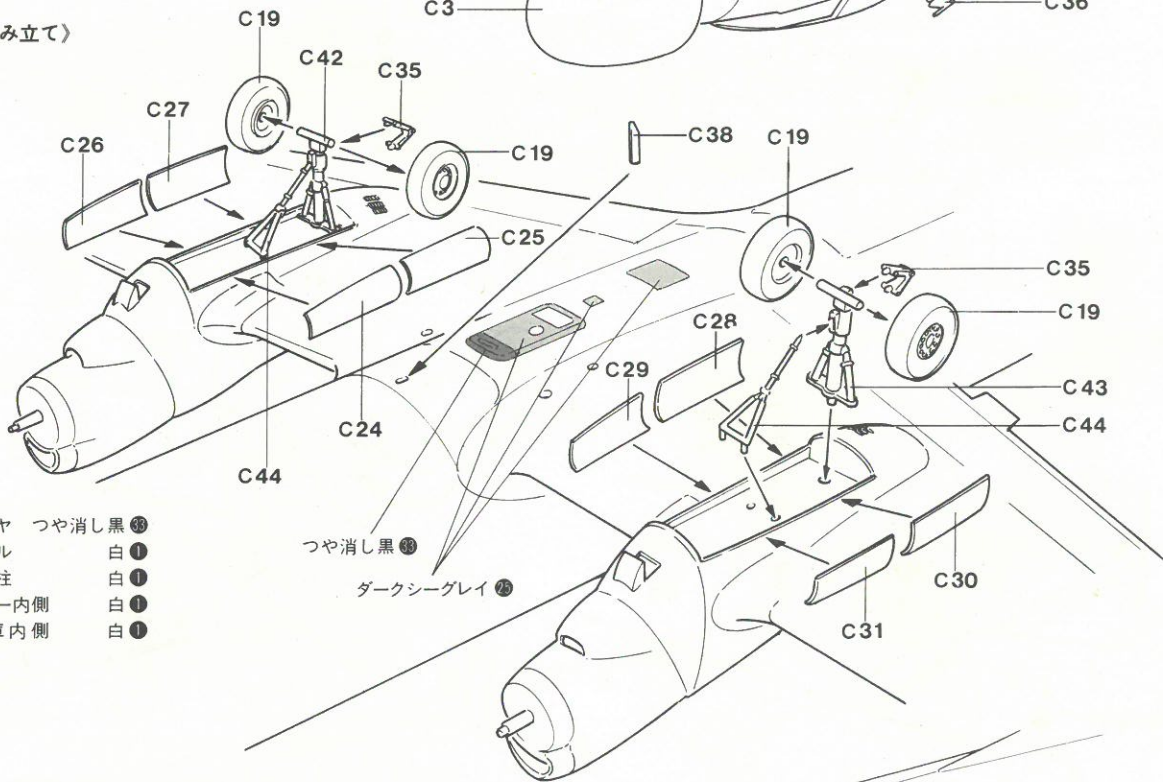
- タイヤ つや消し黒 ③
- ホイール 白 ①
- 脚柱 白 ①
- 脚カバー内側 白 ①
- 脚納庫内側 白 ①

※オモリが足りなかった場合、レドームの内にオモリを入れて下さい。

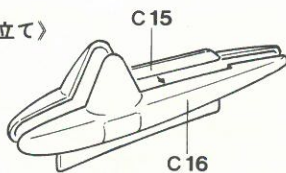


《主脚の組み立て》

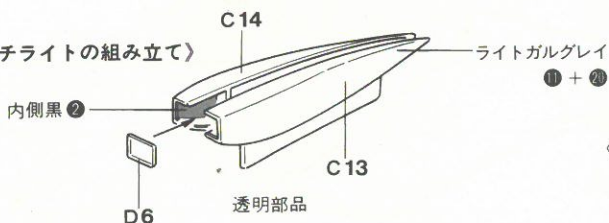
- タイヤ つや消し黒 ③
- ホイール 白 ①
- 脚柱 白 ①
- 脚カバー内側 白 ①
- 脚納庫内側 白 ①



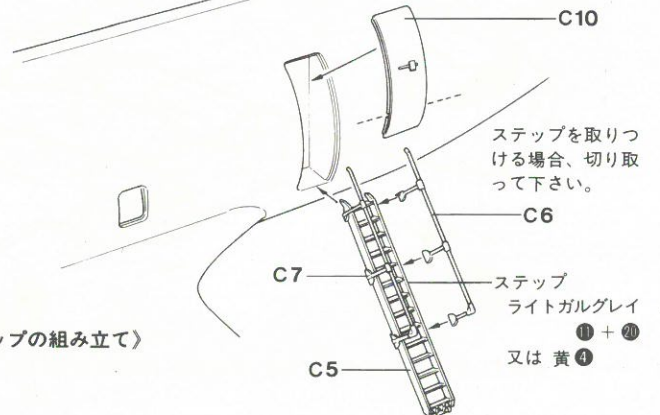
《ESMポッドの組み立て》



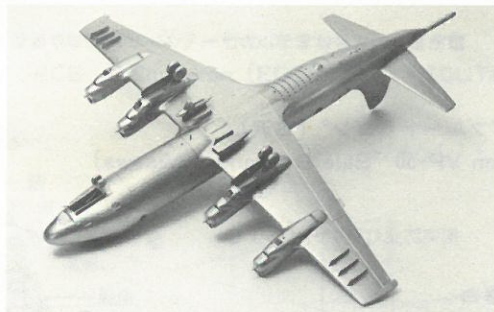
《サーチライトの組み立て》



《ステップの組み立て》

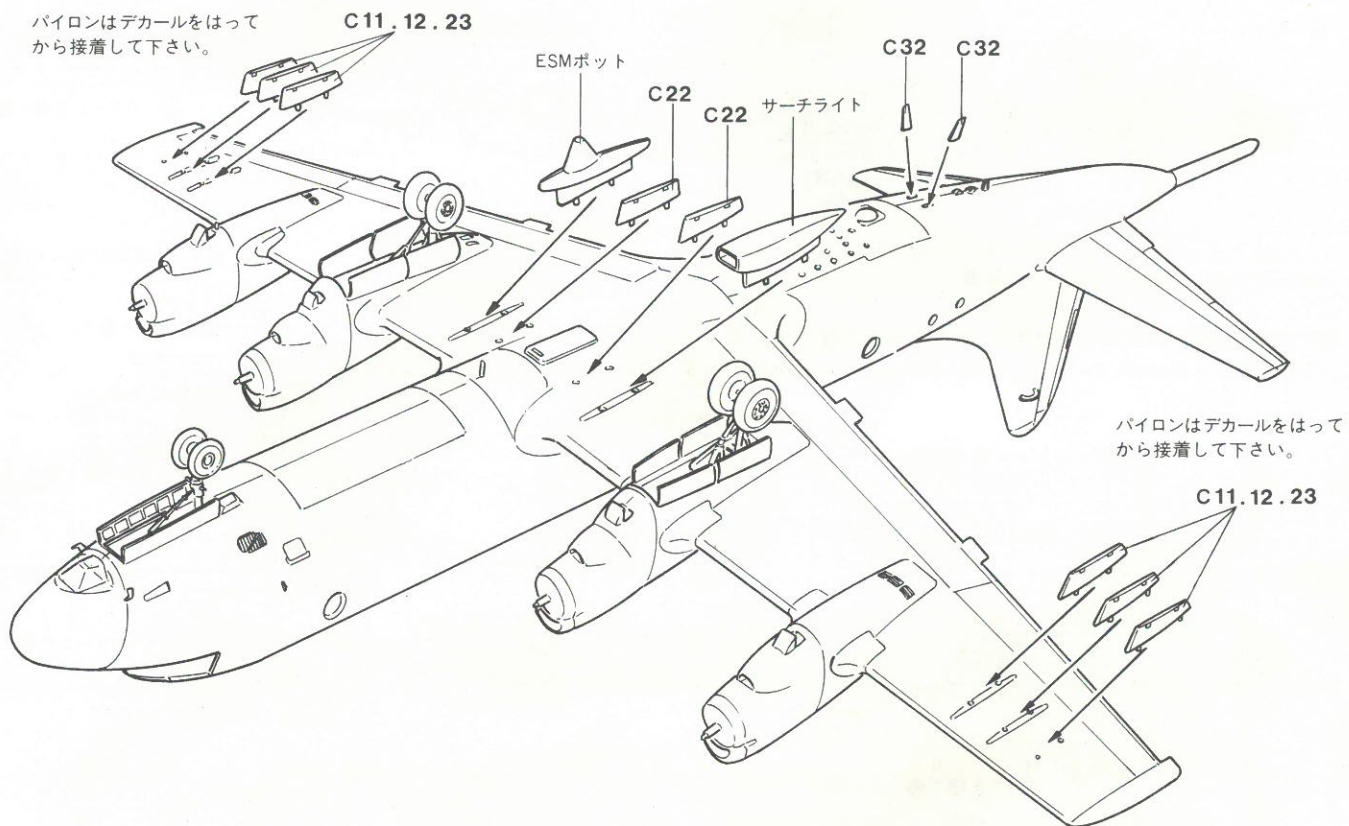


4 機体部品の組み立て

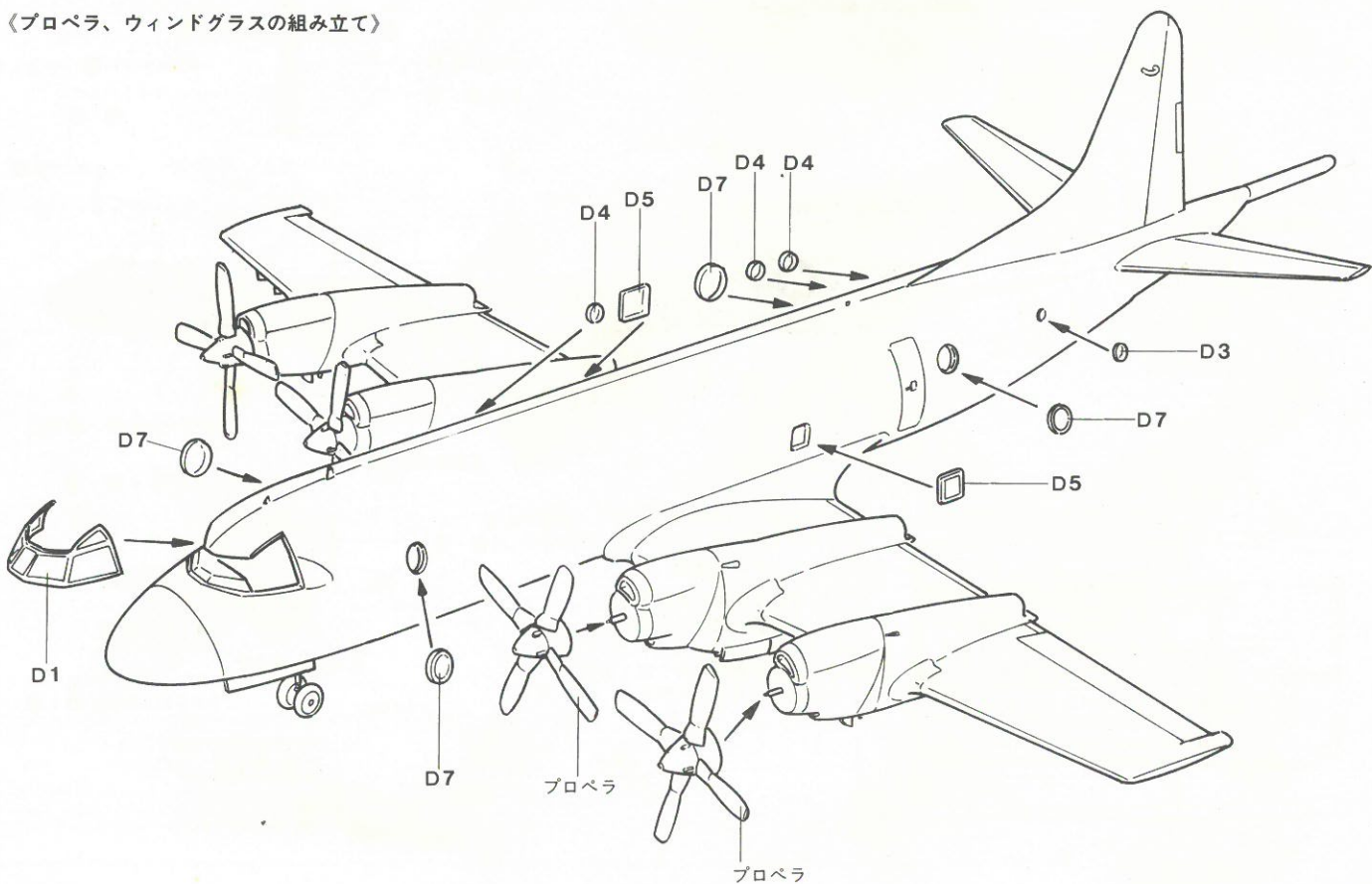


《機体うら側の組み立て》

パイロンはデカールをはって
から接着して下さい。



《プロペラ、ウィンドグラスの組み立て》



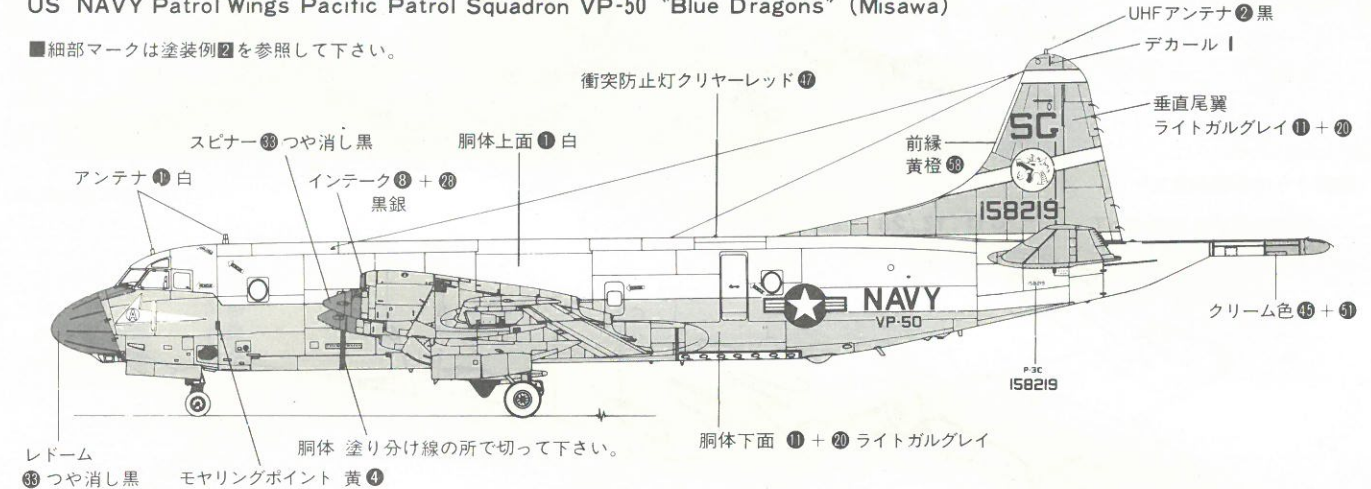
Marking & Color Painting Guide

■色指定の番号はモデルカラー・グンゼカラーの番号で指定してあります。

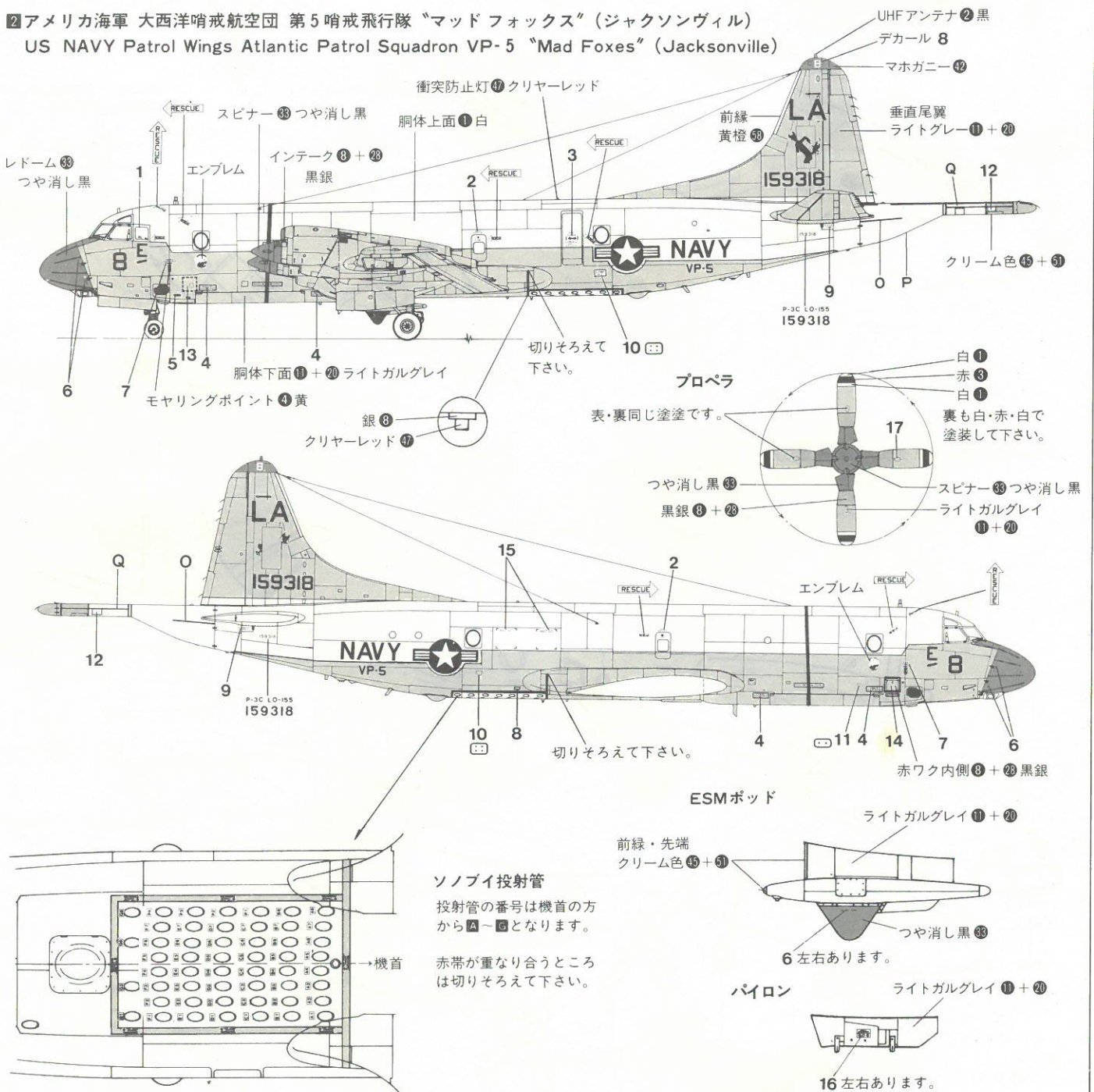
〈マーキング及び塗装参考図〉

1 アメリカ海軍 太平洋哨戒航空団 第50哨戒飛行隊 "ブルードラゴン" (三沢) US NAVY Patrol Wings Pacific Patrol Squadron VP-50 "Blue Dragons" (Misawa)

■細部マークは塗装例2を参照して下さい。



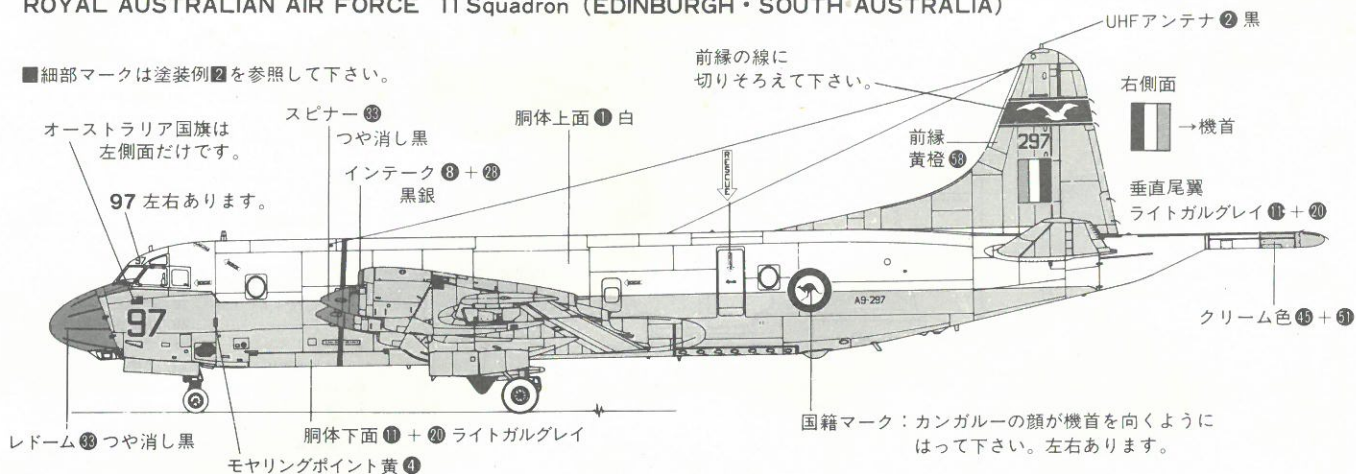
2 アメリカ海軍 大西洋哨戒航空団 第5哨戒飛行隊 "マッドフォックス" (ジャクソンビル) US NAVY Patrol Wings Atlantic Patrol Squadron VP-5 "Mad Foxes" (Jacksonville)



3 オーストラリア空軍 第11飛行中隊 (エディンバラ・サウスオーストラリア)
 ROYAL AUSTRALIAN AIR FORCE 11 Squadron (EDINBURGH · SOUTH AUSTRALIA)

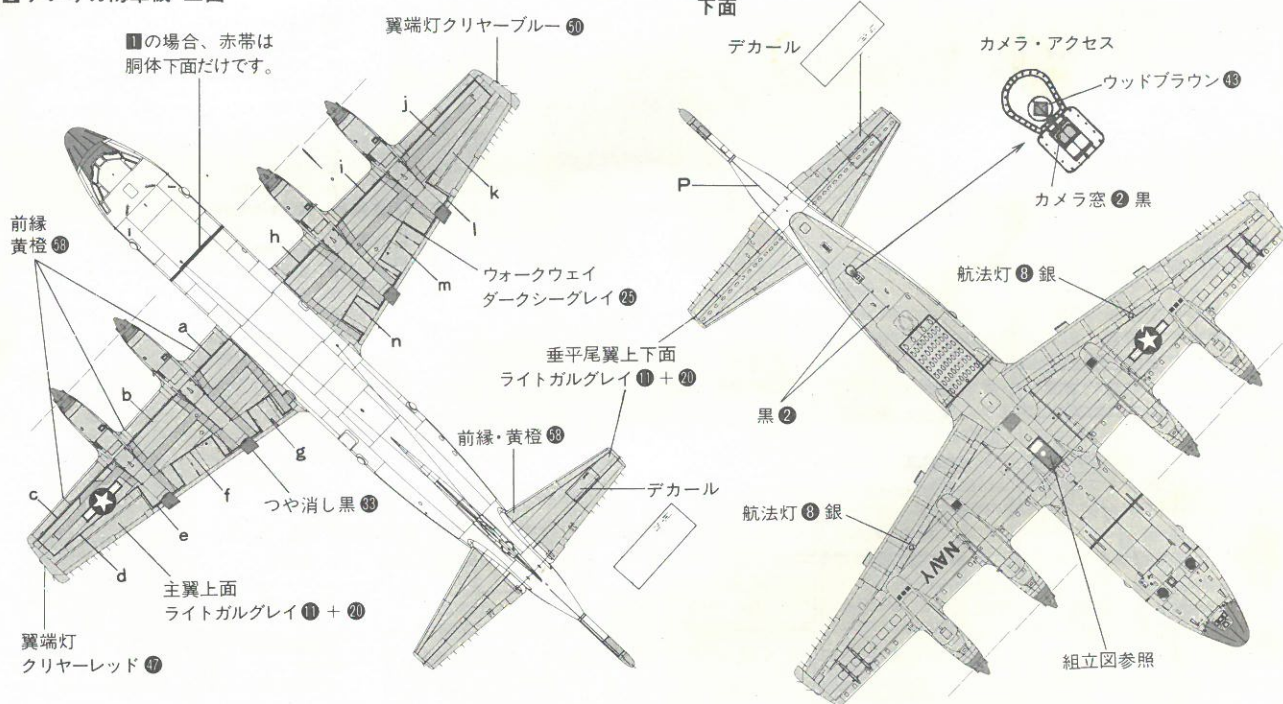
■細部マークは塗装例2を参照して下さい。

前縁の線に
切りそろえて下さい。



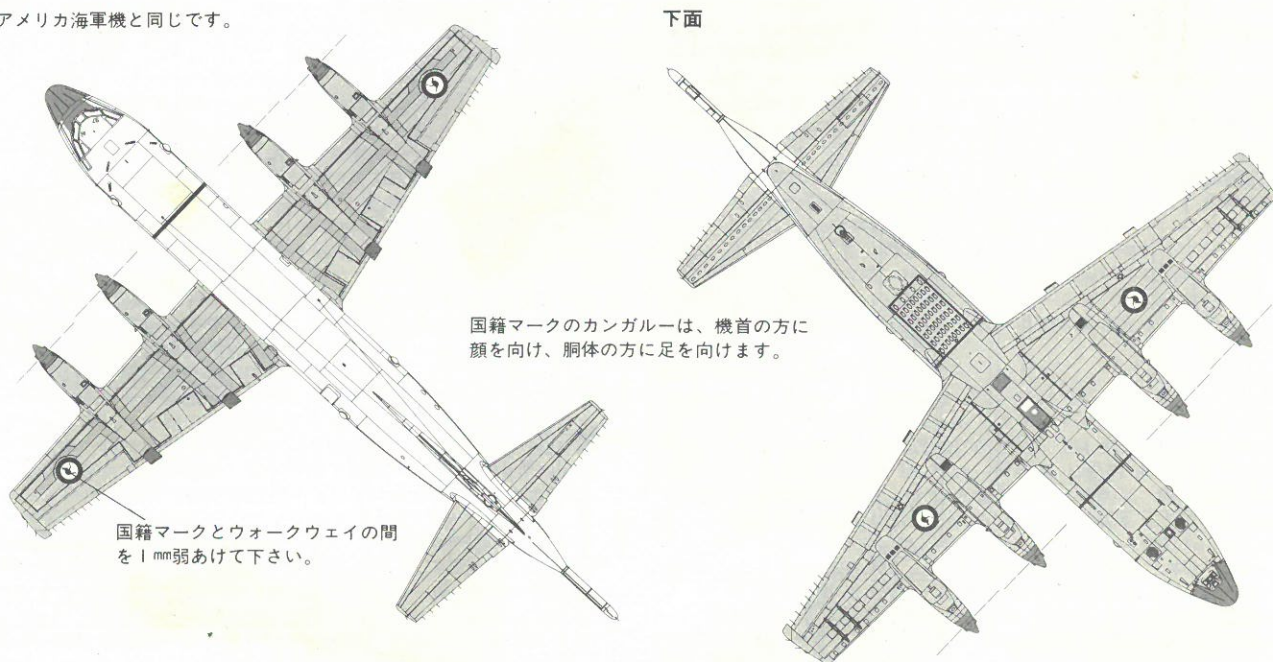
1 2 アメリカ海軍機 上面

1の場合、赤帯は胴体下面だけです。

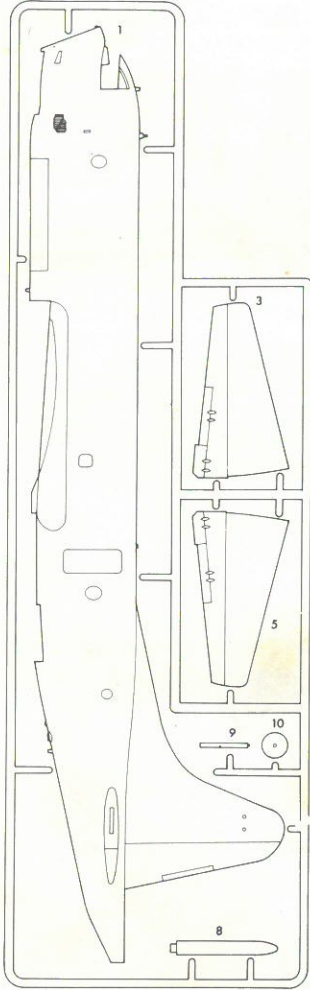


3 オーストラリア空軍機 上面

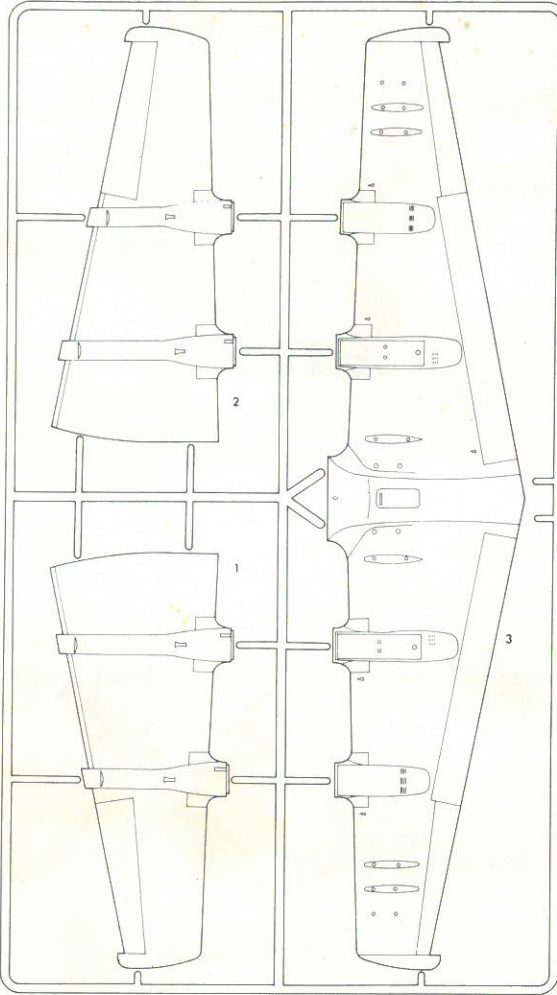
1 アメリカ海軍機と同じです。



〈A部品〉



〈B部品〉



〈部品番号及び部品名〉

A部品

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 胴体(左) | 6. 水平尾翼下面(右) |
| 2. 胴体(右) | 7. MADブーム(右) |
| 3. 水平尾翼上面(左) | 8. MADブーム(左) |
| 4. 水平尾翼下面(左) | 9. ジャッキ部品A |
| 5. 水平尾翼上面(右) | 10. ジャッキ部品B |

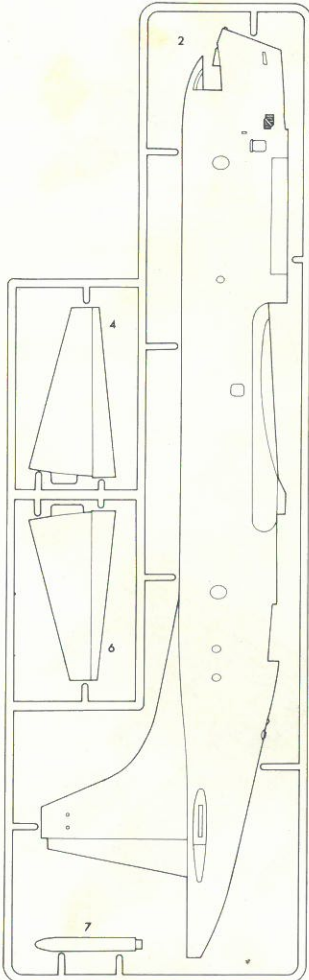
B部品

- | | |
|------------|---------|
| 1. 主翼上面(右) | 3. 主翼下面 |
| 2. 主翼上面(左) | |

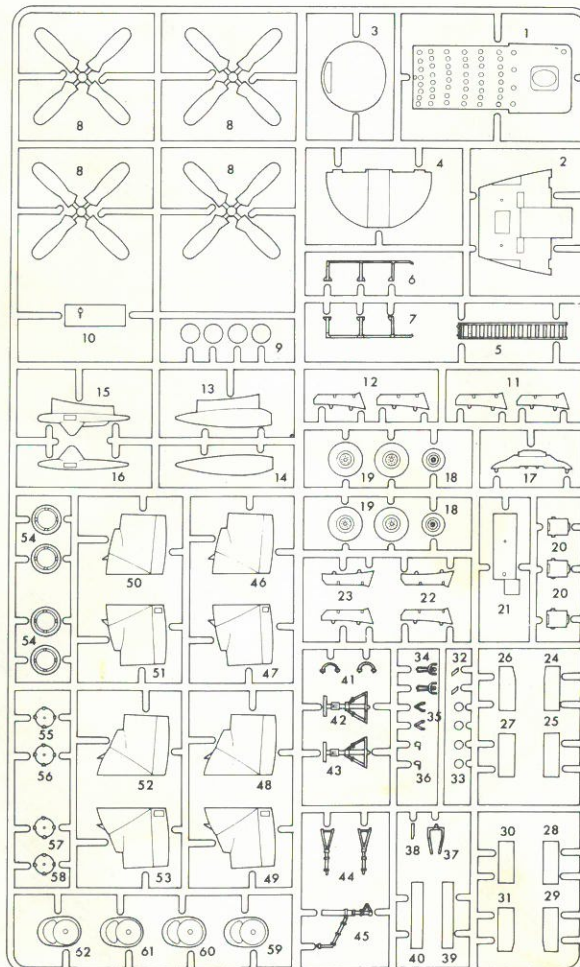
C部品

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1. ソノバイ投下パネル | 38. アンテナB |
| 2. コックピットフロアー | 39. 前脚扉(左) |
| 3. レドーム | 40. 前脚扉(右) |
| 4. パルクヘッド | 41. アンテナC |
| 5. はしご本体 | 42. 主脚柱(左) |
| 6. はしご手摺り(右) | 43. 主脚柱(右) |
| 7. はしご手摺り(左) | 44. 主脚柱部品 |
| 8. プロペラ | 45. 前脚柱 |
| 9. 排気管 | 46. 左外側エンジン架ア
クセス(左) |
| 10. キャビン・ドア | 47. 左外側エンジン架ア
クセス(左) |
| 11. パイロンA | 48. 左内側エンジン架ア
クセス(左) |
| 12. パイロンB | 49. 左内側エンジン架ア
クセス(右) |
| 13. サーチライト(右) | 50. 右外側エンジン架ア
クセス(左) |
| 14. サーチライト(左) | 51. 右外側エンジン架ア
クセス(右) |
| 15. ESMポッド(左) | 52. 右内側エンジン架ア
クセス(左) |
| 16. ESMポッド(右) | 53. 右内側エンジン架ア
クセス(右) |
| 17. 計器板 | 54. スピナー後部 |
| 18. 前車輪 | 55. スピナー前部 |
| 19. 主車輪 | 56. スピナー前部 |
| 20. シート | 57. スピナー前部 |
| 21. 前脚納庫 | 58. スピナー前部 |
| 22. パイロンC | 59. 左内側エンジンカウ
リング |
| 23. パイロンD | 60. 右内側エンジンカウ
リング |
| 24. 左主脚扉前部(右) | 61. 右外側エンジンカウ
リング |
| 25. 左主脚扉後部(右) | 62. 左外側エンジンカウ
リング |
| 26. 左主脚扉前部(左) | |
| 27. 左主脚扉後部(左) | |
| 28. 右主脚扉後部(左) | |
| 29. 右主脚扉前部(左) | |
| 30. 右主脚扉後部(右) | |
| 31. 右主脚扉前部(右) | |
| 32. アンテナA | |
| 33. プロペラシャフト | |
| 34. 操縦桿 | |
| 35. オレオ | |
| 36. ビト管 | |
| 37. 前脚柱部品 | |

〈A部品〉



〈C部品〉



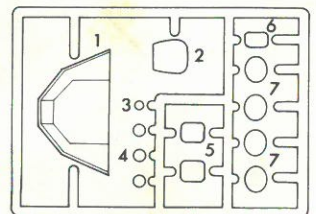
D部品

- | | |
|-----------|------------|
| 1. キャノピー | 5. 非常口ドア用窓 |
| 2. 機首カメラ | 6. サーチライト |
| 3. ガラス窓 | 7. 観測窓 |
| 4. 食堂明かり窓 | |

その他の部品

- | | | | |
|-------|----|---------|----|
| 接着剤 | 1本 | カラーガイド | 1枚 |
| 組立説明図 | 1冊 | スライドマーク | 1枚 |

〈D部品〉



家庭用品品質表示法による接着剤品質表示
 取扱い上の注意 1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたづらをしない様注意して下さい。
 2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
 3. 故意に吸わない様注意して下さい。
 表示者 SZ 3000 SZ 3006 SZ 5013
 部品を取り出した空袋は幼児が被ったりしないように破り捨てして下さい。

LOCKHEED ORION

P-3C

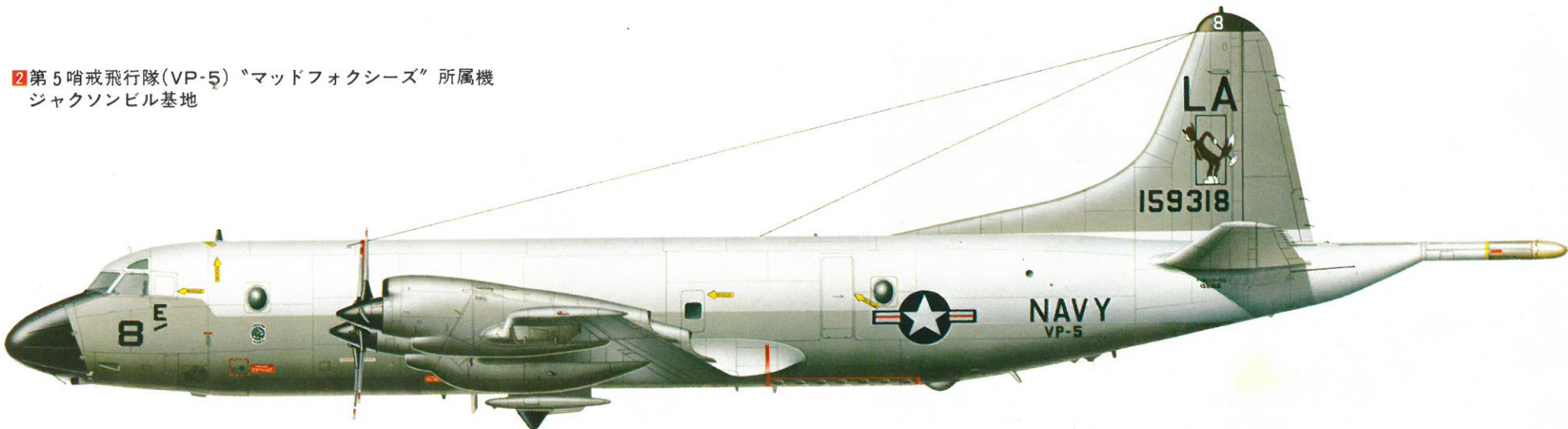
1/72スケール ロッキード P-3C オリオン

(ハセガワカラーガイド)

1 第50哨戒飛行隊(VP-50) "ブルードラゴンズ"所属機
三沢基地



2 第5哨戒飛行隊(VP-5) "マッドフォクシーズ"所属機
ジャクソンビル基地



詳しい塗装解説は組立説明図を
ごらんください。